

研究主題

言語活動の充実に関する研究

目 次

第 1	研究の概要	30
第 2	研究の背景とねらい	
1	研究の背景	31
2	研究のねらい	32
第 3	研究の内容	32
1	本研究における「言語活動」の捉え	32
2	調査研究	32
	児童の意識調査の内容と集計結果	
	教師の意識調査の内容と集計結果	
	分析と考察	
3	開発研究	36
	「言語活動としての要素」について	
	「言語活動を支える基盤」について	
	「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」の指導計画への位置付け方	
	言語活動関連一覧（社会科）	
4	検証授業の分析及び考察	45
	第 2 学年算数科、第 4 学年社会科、第 5 学年算数科、第 5 学年理科	
5	児童の言語活動を充実させるための校内研究の効果的な進め方	49
	調査研究	
	言語活動を充実させる校内研修会の取組例	
	言語活動を充実させる学習環境	
第 4	研究の成果と今後の課題	
1	研究の成果	53
2	今後の課題	53
○	参考資料・文献	54

— < 研究の成果と活用 > —

1 研究の成果

- (1) 言語活動の充実を図るための「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」の開発、及びこれらを踏まえた「言語活動関連一覧」の作成。
- (2) パンフレット「言語活動の充実に向けて」を作成し、区市町村教育委員会及び都内公立小学校等への配布。

2 活用

- (1) 「言語活動関連一覧」等を活用し、単元指導計画及び 1 単位時間の授業に言語活動を適切に位置付け、各教科等の授業の構成や進め方の改善に資することができる。
- (2) 研究授業や校内研修会において「授業参観の視点の例」等を活用し、児童の言語活動を充実させる効果的な校内研究を推進することができる。

第1 研究の概要

言語活動の充実に関する研究

研究のねらい

各教科等の授業のねらいを実現するための言語活動を効果的に位置付けた指導の在り方の開発

目指す児童像

国語科で身に付けた技能を基に、習得した各教科等の知識・技能を活用し、よく考え、よく判断して、自分の言葉で表現できる児童

【研究仮説】

各教科等の特性に応じた学習活動や他者と伝え合う活動を、言語活動として、意図的・計画的に単元計画や1単位時間に設定すれば、よく考え、よく判断して、自分の言葉で表現できる児童が育つであろう。



基礎研究

本研究における「言語活動」の捉え

国語科で身に付けた技能を基に、各教科等の授業のねらいを実現するための「話す・聞く」「書く」「読む」活動全般を指し、「思考」「判断」「表現」を伴うものである。

調査研究

〔教師の意識調査〕国語科及び各教科等における言語活動の充実を図るための指導上の課題についての調査

→言語活動を充実させるための具体的な働きかけや指導の手だてを探る。

〔児童の意識調査〕言語活動においてどのような活動を得意あるいは不得意と感じているかについての調査

→言語活動を充実させるための具体的な働きかけや指導の手だてを探る。

〔言語活動に関する校内研究推進状況等を把握する調査〕言語活動の研究に取り組んでいる都内公立小学校を対象に、研究授業や校内研修会等についての調査

→児童の言語活動を充実させる校内研究の効果的な進め方を探る。

開発研究

・「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」の開発

・各教科等の授業のねらいを実現するための指導の手だてとして「言語活動関連一覧」の作成

① 改訂された学習指導要領に示された改善の具体的事項等を踏まえ、各教科等における言語活動の指導の重点を明らかにする。

② 調査結果から明らかとなった課題を踏まえ、各教科等の授業のねらいを実現するための「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」を開発し、これらの要素等を取り入れた単元指導計画及び1単位時間の授業モデル(案)を作成する。

研究のまとめ(検証と考察)

① 「言語活動としての要素」と「言語活動を支える基盤」、及び「言語活動関連一覧」の検証。

② 児童の言語活動を充実させる校内研究の効果的な進め方について。

研究成果の活用

① 言語活動の充実を図るための「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」の開発、及びこれらを踏まえた「言語活動関連一覧」の作成。

② パンフレット「言語活動の充実に向けて」を作成し、区市町村教育委員会及び都内公立小学校等への配布。

基礎研究の情報提供

予備調査等の情報提供

基礎研究の情報提供

教科等における指導方法等の情報

調布市立第一小学校

6年間を見通した各教科等における言語活動の充実を図った授業改善

→国語科の「書くこと」「話すこと・聞くこと」学習を基盤とした、各教科等における言語活動の充実

指導部 言語活動開発委員会

研究開発の視点

- ・各教科等の目標達成に資する言語活動の工夫
- ・児童の思考力・判断力・表現力等を育む授業の在り方

第2 研究の背景とねらい

1 研究の背景

今般改訂された学習指導要領では、「生きる力」を育むという理念は引き継がれ、その理念を実現するための具体的な手だてを確立するための観点の一つとして、思考力・判断力・表現力等の育成が示されている。そして、これらの能力の基盤として言語の能力を育成することが重視されている。

この背景として、平成20年1月に示された中央教育審議会の答申では、次に示すように、各教科等における子供たちの課題を挙げている。

国語… 国際的な学力調査の結果から、読解力において低下傾向が見られる。具体的には、文章や資料の解釈、熟考・評価や、論述形式の設問に課題がある。

社会… 子どもたちの学習状況については、基礎的・基本的な知識、概念が十分に身に付いていない状況が見られる。さらに、知識・技能を活用することの重要性が指摘されている。

算数… 教育課程実施状況調査や国際的な学力調査によると、事柄や場面を数学的に解釈すること、数学的な見方や考え方を生かして問題を解決すること、自分の考えを数学的に表現することなどに課題が見られた。

理科… 教育課程実施状況調査において、地層のでき方を推論する問題、意味付けや関係付けを伴う説明活動に関する問題、グラフを読み取り考察する問題、実験の途中経過を考察する問題などにおいて、科学的な思考力・表現力が十分ではない状況がある。

平成20年中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」

これを受けて、改訂された学習指導要領では、指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項として、「各教科等の指導に当たっては、児童の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童の言語活動を充実すること。」と明示され、児童の言語活動を充実することが求められた。

一方、東京都教育委員会においても、「東京都教育ビジョン（第2次）」（平成20年5月策定）において、東京都が目指すこれからの教育として、「生きる力」を育む教育を推進することを掲げている。その一環として、他者と積極的に関わり、自分や相手の考えを相互に伝えたり理解したりするコミュニケーション能力の大切さについて述べている。

しかしながら、言語活動に関わる課題を、都内公立小学校94校に調査したところ、21%の学校が「発表や話し合いの授業になりがち」と回答しており、「言語活動＝話し合い活動」と捉えられがちであり、表現活動に重点を置いた指導がなされたり、「言語活動」自体が目的となってしまっている授業が行われたりしている場合が少なくないという課題が明らかになった。

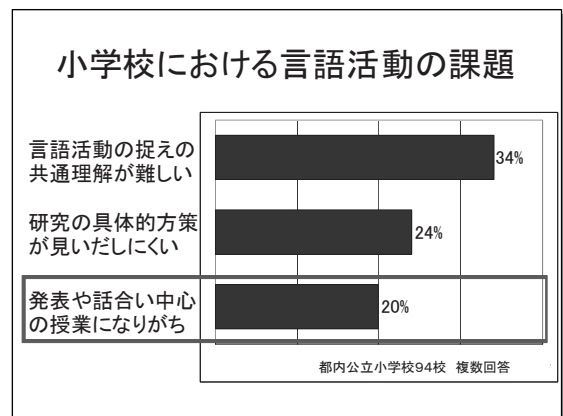


図1 小学校における言語活動の課題

2 研究のねらい

本研究では、こうした社会的な背景や学校の実態から、言語活動の充実を図り、各教科等の授業のねらいを実現するためには教師がどのように授業改善を図ればよいか、その具体的な方策について検討していくこととした。

そこで、研究のねらい、目指す児童像、研究仮説を以下のように整理した。

〔研究のねらい〕

各教科等の授業のねらいを実現するための言語活動を効果的に位置付けた指導の在り方の開発

〔目指す児童像〕

国語科で身に付けた技能を基に、習得した各教科等の知識・技能を活用し、よく考え、よく判断して、自分の言葉で表現できる児童

〔研究仮説〕

各教科等の特性に応じた学習活動や他者と伝え合う活動を、言語活動として、意図的・計画的に単元計画や1単位時間に設定すれば、よく考え、よく判断して、自分の言葉で表現できる児童が育つであろう。

なお、平成23年4月から小学校は、改訂された学習指導要領が全面実施となるため、本年度は小学校に焦点化して研究を進めることとした。

第3 研究の内容

1 本研究における「言語活動」の捉え

「言語活動」とは、文字通り、言語を用いて行う様々な活動である。各教科等における学習活動の大半は、言語による「話す・聞く」「書く」「読む」活動を通して理解し、思考したり、判断したりしたものを表現するものである。

しかしながら、研究に協力した学校の事前調査から、「国語科における学習活動で身に付けた言語の力が各教科等の学習活動に十分に生かされていない」、「言語活動自体が目的になってしまっている」といった実態が明らかになった。

そこで、本研究では、改めて言語活動を次のように捉えた。

「言語活動」とは、国語科で身に付けた技能を基に、各教科等の授業のねらいを実現するために「話す・聞く」「書く」「読む」活動全般を指し、「思考」「判断」「表現」を伴うものである。

また、本研究においては、特に、思考し、判断した内容を、自分の言葉で表現できることが大切であると考え、「話す」「書く」ことに重点を置くこととした。

2 調査研究

基礎研究では、都内公立小学校の教師約600名を対象に、国語科及び各教科等における言語活動の充実を図るための指導上の課題を把握するために、質問紙による意識調査を行った。また、児童が、言語活動においてどのような活動を得意あるいは不得意と感じているかを把握するため、都内公立小学校第4学年から第6学年までの児童約1,000名を対象に質問紙による調査を行った。これらの調査結果を踏まえて、言語活動を充実させるための具体的な働きかけや指導の手だてを探ることとした。

(1) 児童の意識調査の内容と集計結果

児童が学習において、表1の項目のどの活動を得意と感じているか、四件法による質問紙調査を実施し、その回答を集計した。(図2) また、「得意ではない」、「あまり得意ではない」と回答した児童には、その理由についての記述を求めた。

表1 「児童の言語活動に関する意識調査の項目」

自分の考えを説明したり報告したりすることはとくいですか。
友達の意見に対し、助言したり提案したりすることはとくいですか。
討論することはとくいですか。
グループや学級全体で話し合うことはとくいですか。
文や図・表・絵・写真などから読み取ったことを基に話すことはとくいですか。

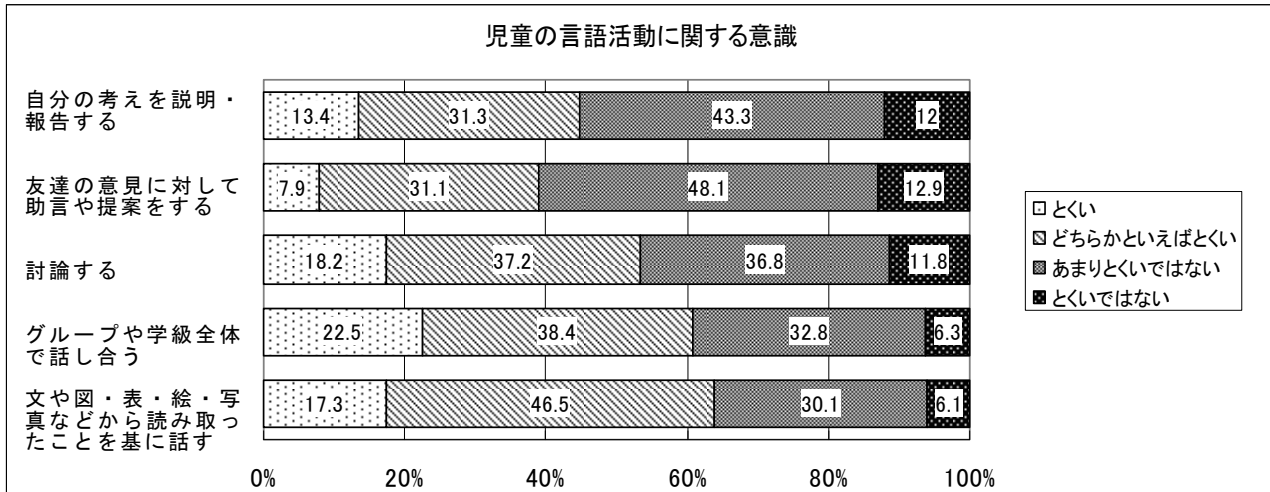


図2 「児童の言語活動に関する意識調査」

集計結果については、言語活動に関わる活動の中で、児童が「得意ではない」「あまり得意ではない」と答えたのは、「友達の意見に対して助言や提案をする」活動で、全体の61.0%であった。次いで、「自分の考えを説明したり、報告したりする」活動が55.3%、「討論する」活動が48.6%、「グループや学級全体で話し合う」活動が39.1%の児童が否定的な回答をしている。

得意ではないことの原因としては、「言いたいことをうまく説明できない」が48.7%と最も多く、「話す内容が分からない」が21.8%、「どのような言葉をつかえばよいか分からない」が17.6%と続いている。

(2) 教師の意識調査の内容と集計結果

教師については、国語科の領域の中で、表2の調査項目から指導上の課題と感じていること(複数回答)について調査し、その回答を集計した。(図3・4)

表2 「国語科の指導において課題を感じている学習」

領域	言語活動の充実を図るために、国語科の指導において課題を感じている学習
話すこと 聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・説明や報告をすること ・友達の意見に対する助言や提案をすること ・討論すること ・グループや学級で話し合うこと ・図表や絵写真から読み取ったことを基に話したり聞いたりすること
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や語句、語彙の習得に関すること ・詩や短歌、俳句、物語等を書くこと ・新聞等に表すこと ・資料を用いて説明する文章を書くこと
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだものの感想を述べ合うこと ・図鑑や事典を利用すること ・本を読み想像を広げること ・本の好きな場面を紹介すること

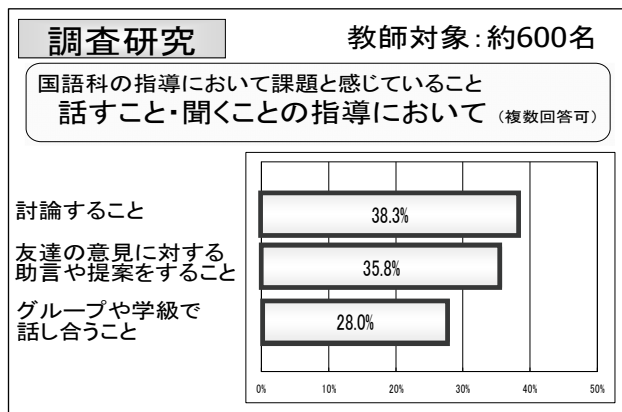


図3 「話すこと・聞くことの指導上の課題意識」

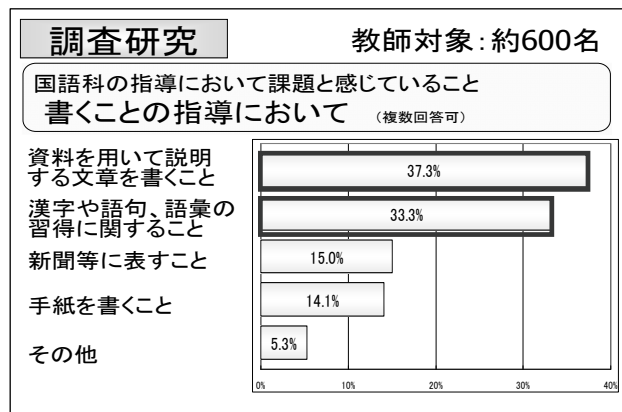


図4 「書くことの指導上の課題意識」

さらに、各教科等においては、表3の項目の中から、どの指導内容について課題を感じているか調査し、その回答を集計した。(図5)

表3 「各教科等の指導において課題を感じている学習」

教科	言語活動の充実を図るために、指導において課題を感じている学習
社会	<ul style="list-style-type: none"> 考えたことをまとめ、伝え合うことにより互いの考えを深めていくこと 各種の資料から読み取ったことを的確に記録すること 各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること
算数	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを分かりやすく説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりすること 数学的な表現を用いて、根拠を明らかにし筋道立てて考えをまとめること 言葉や数、式、図、表、グラフなどの相互の関連を理解し、問題を解決すること
理科	<ul style="list-style-type: none"> 科学的な概念を使用して考えたり説明したりすること 観察実験の結果を表やグラフに整理し、予想や仮説と関係付けながら考察を言語化し、表現すること
生活	<ul style="list-style-type: none"> 活動や体験したことの気付き等を他の人たちと伝え合うこと 活動や体験したことを自分なりに整理し、振り返ること 活動や体験したことを言葉や絵で表すこと
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 感じ取ったことを言葉で表すこと 音楽に関する用語や記号などを音楽活動と関連付けながら理解すること 一つ一つの言葉の意味するところや、歌詞全体の内容を把握すること
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞や表現の活動において、感じ取ったことを話したり、話し合ったりして、よさや美しさを判断する活動へとつなげること 鑑賞や表現の活動において、自分が感じたことなどを言葉に表すこと
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 衣食住など生活の中の様々な言葉を、製作や調理などの実習を通して児童が実感を伴って理解すること 生活の課題を解決するために、言葉や図表などを用いて考えたり説明したりすること
体育	<ul style="list-style-type: none"> 筋道を立てて練習や作戦を考え改善の方法などを話し合うこと 課題に応じた運動の取り組み方を工夫すること
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付かせること 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すること
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深めること 自分の考えを基に、書いたり話し合ったりすること 自己の心情や判断等を表現すること
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 意見の異なる人と折り合いを付けたり、他者と議論して集団としての意見をまとめたりする話し合い活動をする 体験したことや調べたことをまとめたり、発表し合ったりすること
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> 多様な情報を受信し、収集・整理・発信すること 言語により分析し、まとめたり表現したりすること 互いに教え合い学び合う活動や地域の人との意見交換など、他者と協同して課題を解決しようとする

集計結果については、国語科の領域の中の「話すこと・聞くこと」で教師が指導上の課題と感じているのは、「討論すること」が38.3%と最も多く、「友達の意見に対する助言や提案をすること」が35.8%、「グループや学級で話合うこと」が28.0%と続いている。(図3)

国語科の領域の中の「書くこと」の指導上の課題としては、「資料を用いて説明する文章を書くこと」が37.3%と最も多く、「漢字や語句、語彙の習得に関すること」が33.3%と続いている。(図4)

各教科等における指導上の課題を見てみると、算数の「数学的な表現を用いて根拠を明らかにし、筋道立てて考えをまとめること」が36.0%、理科の「観察実験の結果を表やグラフに整理し、予想や仮説と関係付けながら考察を言語化し、表現すること」が34.1%、社会の「考えたことをまとめ、伝え合うことにより互いの考えを深めていくこと」が31.7%と続いている。(図5)

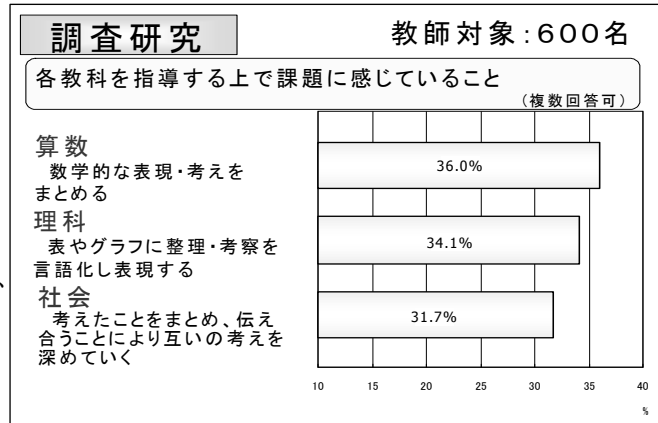


図5 「各教科等における指導上の課題意識」

(3) 分析と考察

今回の調査結果から、児童が「得意ではない」、「あまり得意ではない」と回答した「友達の意見に対して助言や提案をすること」「自分の考えを説明・報告すること」「討論すること」「グループや学級全体で話合うこと」などの学習活動は、指導にあたる教師自身も指導法などに課題を感じていることが明らかになった。

言語活動を充実させるためには、これらの課題となっている活動を意図的・計画的に指導の中に取り入れることが必要であり、そのための方策を導き出す観点として次のようにまとめた。

- 「自分の考えをもち適切に表現する活動」
- 「他者との伝え合いを通して思考を深める活動」

また、国語科における「書くこと」の指導において、教師は、「漢字や語句、語彙の習得に関すること」や「資料を用いて説明する文章を書くこと」の指導に、課題意識が見られた。一方、教科を限定せず、日頃の授業の中での児童の課題を聞いたところ、「自分の考えを説明したり報告したりする」活動に苦手意識をもっていることが明らかとなった。その理由として、「言いたいことをうまく説明できない」「話す内容が分からない」「どのような言葉をつかえばよいか分からない」と回答している。

言語活動を充実させるためには、これらの課題となっている活動を意図的・計画的に指導の中に取り入れることが必要であり、前述の観点に続いて次のようにまとめた。

- 「自分の考えを説明するために必要な語彙の習得と基礎的・基本的な知識」
- 「相手に分かりやすく説明するために必要な方法」

3 開発研究

(1) 「言語活動としての要素」について

調査研究では、教師や児童の実態から、言語活動を充実させるためには、「自分の考えをもち適切に表現する活動」と「他者との伝え合いを通して思考を深める活動」を、意図的・計画的に取り入れる必要があることが分かった。また、同様の課題は、平成 22 年 12 月に公表された OECD の学習到達度調査 (PISA) の 2009 年調査結果における読解力の結果にも示されている。日本の子供は、必要な情報を見つけ出し取り出すことは得意だが、それらの関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結び付けたりすることがやや苦手であることが指摘されている。このことから、取り出した情報を関連付けたり、自分の言葉で表現したりすることに課題がある、と指摘されている。

これらのことを踏まえ、各教科等の授業のねらいを実現するための「言語活動としての要素」を次のように提案する。

言語活動としての要素

「自己の思考」

「伝え合い」

「思考のまとめ」

「言語活動としての要素」は、これらの課題を解決するための指導の在り方としても位置付けることが可能である。ここで、それぞれの「言語活動としての要素」について説明する。

ア 要素Ⅰ 自己の思考

「自己の思考」は「要素Ⅰ」とした。この要素は、学習の課題に対して、自分の考えをもつ活動であり、自分の考えをどのように表現するか、考える活動と捉えた。

具体的な学習活動の例として、社会科では、2つの資料を比較して自分の考えをもつ活動、理科では、実験の際に予想を立てる活動、実験の方法を考える活動が考えられる。

イ 要素Ⅱ 伝え合い

「伝え合い」は「要素Ⅱ」とした。この要素は、他者との伝え合いを通して、多様なものの見方・考え方に触れる活動と捉えた。

具体的な学習活動の例として、国語科では、場面の情景や人物の会話から、「自己の思考」で自分が想像した登場人物の気持ちを他者と伝え合うこと、算数科では、課題を解決するための式を立て、答えを導くまでの考え方を班や学級で説明し合うことが考えられる。

ウ 要素Ⅲ 思考のまとめ

「思考のまとめ」は「要素Ⅲ」とした。ここでは、他者との伝え合いを通して、再び自分の考えを深める活動であり、この活動を通して、自分の考えを自分の言葉で、他者によりよく表現できるようにする。

具体的な学習活動の例として、社会科では、「自己の思考」や「伝え合い」で自分の考えたことに付け加えたり修正したりしたことを、ポスターセッション等で表現することなどが考えられる。

(2) 「言語活動を支える基盤」について

さらに調査研究において、「自分の考えを説明するために必要な語彙の習得と基礎的・基本的な知識」と「相手に分かりやすく説明するために必要な方法」の観点で言語活動の充実を図る必要があることが分かった。一方、改訂された学習指導要領においても、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させることが求められている。このことを踏まえ、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成に資する「言語活動を支える基盤」を、次のように整理した。

言語活動を支える基盤

「基本的事項の理解」

「学習情報の獲得」

このことにより、児童が得意ではないと回答した「どのような言葉をつかうとよいか分からない」や「言いたいことをうまく説明できない」などの学習活動などに、教師が意図的・計画的に言語活動を取り入れることが可能になると考えた。ここで、それぞれの「言語活動を支える基盤」について説明する。

ア 基本的事項の理解

「基本的事項の理解」は、学習内容の基本的事項を理解したり、各教科等に必要な用語や記号及び表現を理解したりする学習活動である。改訂された学習指導要領などには、児童が、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に踏まえた上で、考えたり、活動したりすることが求められている。例えば、理科における実験を伴う学習では、まず、実験器具の名称やその使い方などを正しく理解することが重要である。その際、学習指導要領や各教科等の解説等で示された用語や記号及び表現を理解させることが大切である。

イ 学習情報の獲得

「学習情報の獲得」は、体験などを含めた広い意味での「教材」から情報を得ることであり、「基本的事項の理解」と併せて「言語活動を支える基盤」と捉えた。ここでの活動は、実験や観察、調査、見学、資料などから読み取ったり、体験などを通して実感したりして学習情報を得ることなどがある。その際、日ごろからノート指導に取り組み、毎時間の学習内容をノートに蓄積させることで、既習事項を想起する際に、学習履歴としてのノートを効果的に活用することもできる。

本研究では、これまで述べてきた「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」はそれぞれが独立し、一方のみが重点的に指導されるのではなく、双方が一体となって学習活動を展開することが必要であると捉えた。教師は、自分の言葉で表現できる児童の育成を目指し、「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」を各教科等の授業のねらいを実現するための手段として、単元(題材)の指導目標や指導内容、及び、各時間の授業構成に沿って、適切に言語活動を位置付けることが大切であると捉えた。

このことを、次のように構造的に図示化した。(P38. 図4)



図4 「言語活動のイメージ図」

従って、各教科等の授業における言語活動を充実させるためには、発表や話し合い活動に偏るのではなく（図5）、「基本的事項の理解」や「学習情報の獲得」といった「言語活動を支える基盤」を押さえることに留意する必要がある。

しかし一方で、基本的事項の教え込みのみの指導では、各教科等の授業のねらいを十分に実現できる学習活動とは言い難く（図6）、「言語活動を支える基盤」や「言語活動としての要素」を各教科等の授業のねらいや内容によって重点化したり、繰り返したりすることにより、学びが深まっていくものとする。

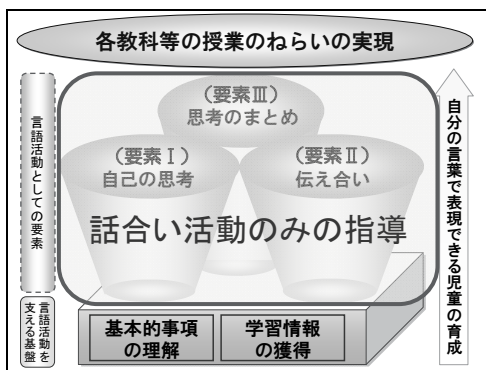


図5 「話し合い活動のみの指導」

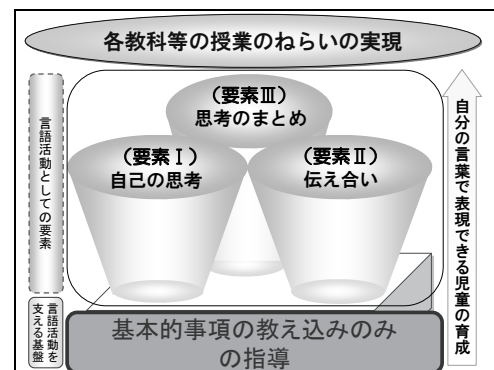


図6 「基本的事項の教え込みのみの指導」

(3) 「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」の指導計画への位置付け方

「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」の双方が一体であることを考慮し、それらを意図的・計画的に指導計画に位置付けることが、各授業のねらいの実現、そして、自分の言葉で表現できる児童の育成につながると本研究では捉えた。

調査研究からも明らかとなっているように、発表や話し合いに重点が置かれ、言語活動自体が目的になっている実態が少なからずある。それを改善するためには、各教科の指導計画を見直して、児童の思考力・判断力・表現力の育成の手段として言語活動を位置付けることが重要である。

このことを踏まえ、単元指導計画の改善を検討し、1 単位時間の授業を計画するようにする。「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」を位置付ける際には、教師は、単元の指導目標や指導内容に沿って、導入や中盤、終盤の学習で重点化する活動を検討し、次に各時間の授業の中に、そのねらいや授業構成に沿って適切に活動を位置付けることが大切である。

例として、「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」の単元指導計画への位置付け、続いて1 単位時間の指導への位置付けを示す。

ア 単元指導計画への位置付け

ここでは、社会科の単元指導計画の作成例について述べる。社会科では、「つかむ、調べる、まとめる」の学習過程により、学習問題を立て、問題解決的な学習を行う。

つかむ段階では、「学習情報の獲得」により、資料から得られた事実を基に、要素Ⅰ「自己の思考」として、自ら関心や疑問をもち、それを要素Ⅱによる「伝え合い」により、学習問題を立てる。

調べる段階では、立てられた学習問題に沿って、「学習情報の獲得」により、資料や観察・見学などで必要な情報を得て、要素Ⅰ「自己の思考」により自分の考えをもつ。

まとめる段階では、調べて分かったことを整理し、要素Ⅰ「自己の思考」により、自分の考えをまとめ、まとめたことを要素Ⅱ「伝え合い」により交流し、要素Ⅲ「思考のまとめ」で、自分の考えを深めていくことになる。

【単元指導計画例】第4 学年 社会科

○ 単元名「玉川兄弟と玉川上水」

- 目標
 - ・ 玉川兄弟の働きに関心をもち、玉川上水の工事の様子や工事に使った道具などについて資料等を活用して調べ、玉川兄弟の働きや苦心について考える。
 - ・ 玉川上水は玉川兄弟の様々な努力と工夫によって作られ、江戸の人々の飲み水としてだけではなく、荒れた武蔵野台地の開発にも役立ったことについて考える。

時	ねらい	主な学習活動及び内容	重点とする要素及び基盤
つかむ	1	学習の進め方を知り、資料を調べることを通して、千川上水に関心をもつ。	練馬区には千川上水があることについて知り、資料を使って調べ、疑問などを出し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">要素Ⅱ 伝え合い</div>
	2	千川上水のもとになった玉川上水に関心をもち、学習問題をつくる。	千川上水のもとになった玉川上水について知り、学習問題をつくり、学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">要素Ⅱ 伝え合い</div>

つかむ	2	【学習問題】 玉川上水は、どのようにして作られたのでしょうか			
	調べる	3	資料を基に、水が必要になった背景や、当時の江戸の人々の気持ちについて考える。	江戸時代、水はとても貴重であったことを知り、玉川上水が必要になった理由について調べる。	基本的事項の理解 学習情報の獲得 要素Ⅰ 自己の思考
4		地形を生かして水路が決められたことについて調べることを通して、玉川兄弟の工夫や努力について考える。	玉川上水の水路はどのようにして決められたのかを調べる。	学習情報の獲得 要素Ⅰ 自己の思考	
5		開削工事に携わった人々の努力や工夫を考える。	工事の様子を調べ、開削工事に携わった人々の工夫や努力に気付く。	要素Ⅰ 自己の思考 要素Ⅱ 伝え合い	
6		資料を基に、江戸の町に玉川上水の水が配られ、江戸の人々の暮らしが変化したことについて考える。	江戸の町にどのようにして玉川上水の水が配られたか、また人々の暮らしがどのように変化したかを調べる。	学習情報の獲得 要素Ⅰ 自己の思考 要素Ⅱ 伝え合い	
7 8		資料を比較し、分水が増えたことから、新田が開発され、人々の暮らしが大きく変化したことについて考える。	玉川上水から引かれた分水と新田開発について調べる。	学習情報の獲得 要素Ⅰ 自己の思考 要素Ⅱ 伝え合い	
まとめる		9 10 11	学習問題を振り返り、物語を作成して、学習したことを自分の言葉で表現する。	学習したことを生かして、玉川上水物語を完成させる。	要素Ⅲ 思考のまとめ

イ 1 単位時間への位置付け

1 単位時間に「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」を適切に位置付け意図的・計画的に授業を構成することで、それぞれの学習活動の関連や指導の手だてが明確になる。

次に「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」を1 単位時間に位置付けた指導計画例を示す。

【1 単位時間の指導計画例】（7 / 1 1 時間）

○ 本時のねらい



玉川上水の水が分水によっていろいろな地域に分けられたことについて考える。

導 入	学習活動	○指導上の留意点 「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」
	1 前時の振り返りをする。	○ 前時のノートを活用するなどして、江戸の町に上水の水が引かれ、江戸の町の人々の暮らしがどのように変化にしたのかを想起させる。
	<p>【学習問題】 玉川上水は完成して60年後、どのように変化したのでしょうか</p>	
	2 玉川上水が完成した後、どのように変化したか、資料を比較し、気付いたことをノートに記録する。	○ 2つの資料を比べて、比較する視点に基づいて、自分の考えをノートに書きましょう。
		<p>基本的事項の理解 学習情報の獲得</p> <p>↓</p> <p>要素Ⅰ 自己の思考</p>
		○ 思考の時間を適切に確保し、一人一人が自分の考えをもてるようにする。 ○ 自分の考えをもつことが難しい児童には、比較する視点のヒントを示す。

まず、導入の段階では、比較する視点に基づいて、2つの資料を比べて自分の考えをノートに書く。教室内の掲示やノートなどから、「言語活動を支える基盤」となる「基本的事項の理解」や「学習情報の獲得」を行い、その上で、学習に必要な用語や資料を活用し、「自己の思考」を十分にもつことができるようにしていく。児童は、このことにより、自分の考えをより明確にもつことができる。

展 開	学習活動	○指導上の留意点 「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」
	3 玉川上水ができたころの水路図と60年後の水路図を比較して気付いたことについて話し合う。	○ 伝え合うことで、自分が読み取ったことを確かめさせたり、自分が気が付かない点について、気付かせたりする。 ○ 根拠を明らかにしながら分かりやすく説明させる。
		<p>要素Ⅱ 伝え合い</p>
	<p>＜互いに考えを伝え合う＞</p>	<p>2人組になり、それぞれの考えを伝え合しましょう。 友達の考えを聞いて、つけたしやアドバイスをしましょう。</p>

展開の段階では、自分の考えを互いに伝え合う。教師は伝え合う学習形態の設定や伝え合う方法の工夫をする。他者との伝え合いを通して自分の考えを深めることができる。

ま と め	学習活動	○指導上の留意点 「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」
	<p>4 分水がどのように使われたのか自分の言葉でまとめる。</p>  <p style="text-align: center;">＜自分の考えをまとめる＞</p>	<p>○ 社会科で確実に理解させたい基礎的・基本的な用語を確認する。</p> <p>○ 社会的事象の特色や相互の関連などについて考えたことを自分の言葉でまとめさせる。</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>要素Ⅲ 思考のまとめ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>キーワードを使って、話し合ったことや、付け加えたことが分かるように学習のまとめをしましょう。</p> </div> 
<p>まとめの段階では、伝え合いで自分の考えを深めたことを基に、キーワードを活用し、学習したことを自分の考えをまとめ、自分の言葉で表すことができ、授業のねらいの実現を図ることができる。</p>		

※ 指導計画例については、評価規準を示さない。

以上述べてきたように、教師が「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」を授業のねらいや内容に沿って、適切に位置付けることにより、自分の言葉で表現できる児童を育み、授業のねらいを実現するための学習活動を効果的に行うことができる。

(4) 言語活動関連一覧

ここまでは、授業計画の流れに沿って、「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」を適切に単元指導計画及び1単位時間へ位置付けるための例を示してきた。

本研究では、これまでの研究成果を踏まえ授業改善の方策として活用できるよう「言語活動関連一覧」を作成した。図7にその構成を示した。上部は、「各教科等の目標」「言語活動に関する『改善の具体的事項』」「言語活動に関する『改訂の要点』」を、左側には、各学年の目標と学習の内容、右側には、その学年の国語科で培う能力を載せた。中央には、「言語活動に関する『改善の具体的事項』」などを参考に、言語活動における指導の重点と「言語活動を支える基盤」及び「言語活動としての要素」の具体例を掲載した。

単元計画については、例として、図8に構成を示したように、単元の指導目標や指導内容に沿って「主な言語活動」、「言語活動としての要素」、「言語活動を充実させる具体的な指導の手だて」を示し、下の欄には、この単元において、押さえてほしい用語や表現などを載せた。

言語活動関連一覧				
各教科等の目標		●言語活動に関する「改善の具体的事項」 ●言語活動に関する「改訂の要点」		
各学年の目標	内容	言語活動における指導の重点	言語活動を支える基盤及び言語活動としての要素	国語科で培う能力

図7 「言語活動関連一覧の構成」

言語活動関連一覧(単元計画の例)		
主な言語活動	言語活動としての要素	言語活動を充実させる具体的な指導の手だて
この単元において、押さえてほしい用語(記号)や表現(抜粋)		

図8 「言語活動関連一覧(単元計画の例)の構成」

言語活動関連一覽（社会科）

<p>社会科の目標</p>	<p>社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。</p>	<p>●言語活動に関する「改善の具体的事項」</p>	<p>生活科の学習を踏まえ、児童の発達段階に応じて、地域社会や我が国の国土、歴史などに対する理解と愛情を深め、社会的な見方や考え方を養い、身に付けた知識、概念や技能などを活用し、よりよい社会の形成に参画することを重視して改善を図る。その際、作業的、体験的な学習や問題解決的な学習を一層充実させることにより、①学習や生活の基礎となる知識・技能を習得させるとともに、それらを活用して観察・調査したり、②各種の資料から必要な情報を集めて読み取ったりしたことを的確に記録し、③比較・関連付け・総合しながら再構成する学習や④考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを深めていく学習の充実を図る。</p>
<p>●言語活動に関する「改訂の要点」</p>		<p>これまでの「調べたこと」に加え、「考えたこと」を表現することを一層重視</p>	

社会科の目標	内容	言語活動における指導の重点	「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」 ☆主な内容 ○指導上の留意点
<p>(1) 地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動について理解できるようになり、地域社会の一員としての自覚をもつようにする。</p>	<p>(1) 自分たちの住んでいる身近な地域や市(区、町、村)について、次のことを観察、調査したり白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。</p>	<p>① 知識・技能を活用して観察・調査する。 (学習情報の獲得)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ありのままに観察する。 ・ 数や量に着目して調査する。 ・ 観点に基づいて観察・調査する。 ・ 他の事象と対比しながら観察・調査する。 ・ まわりの諸条件と関係付けて観察・調査する。 	<p>話すこと・聞くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 相手や目的に応じ、調べたことなどについて筋道を立てて話す能力。 ○ 話の中心に気を付けて聞く能力。 ○ 進行に沿って話し合う能力。
<p>(2) 地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。</p>	<p>(2) 地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。</p>	<p>② 各種の資料から必要な情報を集めて読み取ったことを的確に記録する。 (学習情報の獲得)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な資料を収集する。 ・ 資料から必要な情報を読み取る。 ・ 資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉える。 ・ 目的に応じて必要な情報を判断し、記録する。 	<p>書くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように段落相互の関係などに注意して文章を書く能力。
<p>(3) 地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。</p>	<p>(3) 地域の人々の生活にとつて必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考えるようにする。</p>	<p>③ 比較・関連付け・総合しながら再構成する (要素Ⅰ・要素Ⅱ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 比較によって、特色について考える。 ・ 結び付きについて考える。 	<p>読むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目的に応じ、内容の中心を捉えたり、段落相互の関係を考えたりしながら読む能力。
<p>(4) 地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。</p>	<p>(4) 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。</p>	<p>④ 考えたことを自分の言葉でまとめ、伝える (要素Ⅰ・要素Ⅱ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手意識や目的を明確にもつ。 ・ 特色や事象の関連を考える。 ・ 絵地図や白地図を活用し、違いなどを明確に表現する。 ・ 説明し合い、考えを深めたり、確かめたりする。 	<p>話すこと・書くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目的に応じ、内容の中心を捉えたり、段落相互の関係を考えたりしながら読む能力。
<p>(5) 地域の人々の生活について、次のことを、資料を活用したり白地図にまとめたりして調べ、果(都、道、府)の特色を考えるようにする。</p>	<p>(5) 果(都、道、府)の様子について、次のことを、資料を活用したり白地図にまとめたりして調べ、果(都、道、府)の特色を考えるようにする。</p>	<p>④ 考えたことを自分の言葉でまとめ、伝える (要素Ⅰ・要素Ⅱ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手意識や目的を明確にもつ。 ・ 特色や事象の関連を考える。 ・ 絵地図や白地図を活用し、違いなどを明確に表現する。 ・ 説明し合い、考えを深めたり、確かめたりする。 	<p>書くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように段落相互の関係などに注意して文章を書く能力。
<p>3・4年</p>	<p>3・4年</p>	<p>3・4年</p>	<p>3・4年</p>

社会科学

社会科学の学習は、学習問題を設定し、問題解決的な学習を行う。以下の例は問題解決的な学習の一部を抜粋して表している。

3年 時	単元名 「学校のまわりのようす」 全13時間	主な言語活動	主な基礎及び要素	言語活動を充実させる具体的な指導の手だて
4	○ 屋上からの観察で見つけたものを発表し合い、東西南北でそれぞれにどのようなものが集まっているかを考え、学習問題をつくる。	学習情報の獲得	要素Ⅰ自己の思考	<ul style="list-style-type: none"> 観察したものを読み取る視点を提示する。 分かったことを記録する際に文型を提示する。 分かった事実在即して、考えをまとめるように指示する。
6	○ 「地域たんけん」をして、学校のまわりの様子を観察し、見つけたものや気付いたことをシートにメモする。	学習情報の獲得	要素Ⅰ自己の思考	<ul style="list-style-type: none"> 観察の視点を提示する。 調べたことや気付いたことを絵や言葉、記号などを使って記録させる。
11	○ 自分が書き込んだ白地図を基に、学校のまわりの様子を表す地図をかき、地域の特色について発表する。	基本的事項の理解	要素Ⅰ自己の思考 要素Ⅱ伝え合い 要素Ⅲ思考のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> グループで地形や土地利用の特色などが分かるよう、記号や絵を活用してまとめさせる。 絵地図から気付いたことや分かったことを文章にまとめ、地域の特色について発表させる。
<p>【この単元において、押さえない用語（記号）や表現（抜粋）】 地図・地図記号・四方位・公共施設・交通・鉄道・古くから残る建物の名称</p> <p>【小学校学習指導要領解説社会編、平成23年度版社会科学科指導計画（東京都小学校社会科学科研究会）】</p>				

3年 時	単元名 「わたしたちのくらしと商店の仕事」 全13時間	主な言語活動	主な基礎及び要素	言語活動を充実させる具体的な指導の手だて
2	○ 家の人に聞いてきた買い物工夫を発表し合う。	基本的事項の理解	要素Ⅰ自己の思考 要素Ⅱ伝え合い	<ul style="list-style-type: none"> 家の人に取材する視点を提示しておく。（買い物をするときに気を付けていること・よく行くお店） 友達の間で発表と比較しながら工夫について考えさせる。
6	○ お店の人の仕事について調べる計画を立て、予想をもって様子を観察したり、仕事の工夫について取材したりする。	学習情報の獲得	要素Ⅰ自己の思考	<ul style="list-style-type: none"> 見学の観点や質問の視点を明確にして取材を行うよう指導する。 （例）工夫や努力、お店の人の思い、地域のつながりに関すること。
11	○ 調べ分かったことを発表し合った後、商店のポスターを作成し、作品を紹介し合う。	基本的事項の理解	要素Ⅰ自己の思考 要素Ⅱ伝え合い 要素Ⅲ思考のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> お店の人の工夫と買う人の工夫を比較して分かったことを考えさせる。（視点を明確にする） 分かったことを記録する際に文型を提示する。 分かった事実在即して考えをまとめるように指示する。
12				<p>【この単元において、押さえない用語（記号）や表現（抜粋）】 商店、商店街、消費者、価格（値段）、産地</p> <p>【小学校学習指導要領解説社会編、平成23年度版社会科学科指導計画（東京都小学校社会科学科研究会）】</p>

4年 時	単元名 「玉川兄弟と玉川上水」 全11時間	主な言語活動	主な基礎及び要素	言語活動を充実させる具体的な指導の手だて
3	○ 上水が必要となった背景を資料を通して調べ、考えをまとめ、発表し意見交換を図る。	基本的事項の理解 学習情報の獲得	要素Ⅰ自己の思考	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み取る視点を提示する。 資料から記録する際に文型を提示する。 資料から分かる事実在即して考えをまとめるように指示する。
7	○ 玉川上水が分水によっていろいろな地域に分けられ、武蔵野の地域に新田が開発され、人々の生活が大きく変化したことについて考えることができる。	要素Ⅰ自己の思考 要素Ⅱ伝え合い	要素Ⅰ自己の思考 要素Ⅱ伝え合い	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをまとめる時間を十分とり、ペアで自分の考えを述べ合わせる。 全体で意見交換し、考えを深める。 自分の考えをまとめる際には、キーワードを提示する。
9	○ 玉川上水物語を作り、発表する。	要素Ⅲ思考のまとめ	要素Ⅲ思考のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習で使った資料やノートを活用し、絵に合う説明文を書く。 小グループで発表し合った後、クラス全体で発表させる。 発表を聞きながら視点を示し、社会科の目標に沿った意見交換ができるように指示する。
11				<p>【この単元において、押さえない用語（記号）や表現（抜粋）】 玉川上水、玉川兄弟、江戸時代、江戸幕府、主な工具の名前（つるはし、もっこ）、分水、新田開発、木ひ、四谷大木戸</p> <p>【小学校学習指導要領解説社会編、わたしたちの東京都（東京都小学校社会科学科研究会）】</p>

4年 時	単元名 「島の自然を生かした人々のくらし」 全8時間	主な言語活動	主な基礎及び要素	言語活動を充実させる具体的な指導の手だて
1	○ 自分たちの住む区（市）と八丈島の写真や映像・資料を見て、同じところやちがうところなど、気付いたことを発表する。	基本的事項の理解	要素Ⅰ自己の思考 要素Ⅱ伝え合い	<ul style="list-style-type: none"> 気付いたことをまとめる時間を十分とり、ペアで自分の考えを述べ合わせる。 全体で意見交換し、考えを深める。 資料を読み取る視点を提示する。 気付いたことを記録する際に文型を提示する。
2	○ 島の自然と人々のくらしの写真などを比較し、それぞれの関係について考え、理由について考える。	要素Ⅰ自己の思考 要素Ⅱ伝え合い	要素Ⅰ自己の思考 要素Ⅱ伝え合い	<ul style="list-style-type: none"> 写真や資料を読み取る視点を提示する。 考えをまとめる時間を十分とりグループで自分の考えを述べ合わせる。 全体で意見交換し、考えを深める。 自分の考えをまとめる際には、キーワードを提示する。
7	○ 島の人のくらしについて調べたことを生かして紹介パンフレットを作成し、作品を紹介し合う。	基本的事項の理解	要素Ⅰ自己の思考 要素Ⅱ伝え合い 要素Ⅲ思考のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習で使った資料やノートを活用し、紹介したい文章や絵を書く。 発表を聞きながら視点を示し、社会科の目標に沿った意見交換ができるように指示する。
8				<p>【この単元において、押さえない用語（記号）や表現（抜粋）】 八丈島、漁業、航路、航空路、主産物、地熱発電、風力発電</p> <p>【小学校学習指導要領解説社会編、わたしたちの東京都（東京都小学校社会科学科研究会）】</p>

4 検証授業の分析及び考察

検証授業では、「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」を単元の目標や内容に応じて位置付けることが、本時のねらいを実現すること、及び、児童がよく考え、よく判断し、自分の考えを表現できることに有効であるかを検証した。

1 図・絵を基に式に表し、乗法の意味の理解をする学習活動

第2学年 算数科

1 単元名：新しい計算を考えよう

2 単元の指導目標

○ 乗法の意味について理解し、それをを用いることができる。

3 検証すべき課題

- ・ 図・絵を基に、式に表し説明する活動を通して、乗法の意味を理解しているか。
- ・ 乗法の意味を理解する手だてとして、数学的表現の定着を図らせることが、児童の互いに説明する活動に有効であったか。

本時の学習（4/22）

(1) 本時のねらい

- ・ 乗法の意味を理解する。

(2) 本時の展開（具体物から言葉や図に表し、式を考える場面 一部抜粋）

学 習 活 動		○指導上の留意点 「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」
自力解決・検討	<p>1 プリンの数を調べる。</p> <p>プリンはずんぶでなんこありますか</p> <p>3個組みのプリン2パック</p> <p>(1) 問題の題意を捉え、言葉で表現する。</p> <p>ワークシートに言葉で表す。</p> <p>言葉で表したことを隣同士で伝え合い、全体で確認をする。</p> <p>(2) 図に表し、式を書く。</p> <p>言葉で表現したことを図で表し、図を基に式で表す</p>	<p>○ プリンの図を提示する。</p> <p>○ 前時で学習した数学的言語（記号・用語）を解釈し、用いるようにさせる。</p> <p>要素Ⅰ 自己の思考</p> <p>具体的な指導の手だて 板書や教室内掲示した既習事項を参考にさせる。</p> <p>具体的な指導の手だて 数学的言語・表現を使うように促す。</p> <p>基本的事項の理解</p> <p>○ 国語科で学習した事柄の順序に留意して伝えるようにさせる。</p> <p>○ 具体物と言葉を関連付けさせる。</p> <p>要素Ⅰ 自己の思考</p> <p>具体的な指導の手だて 「一つ分の大きさ」「いくつつ分」などの用語の意味を確認し理解を確実にする。</p> <p>具体的な指導の手だて 黒板の言葉を見て、図をかかせることで、言葉と図を関連付けさせる。</p> <p>具体的な指導の手だて 言葉に色鉛筆で線を引き、言葉と式を関連付けさせる。</p>

分析

前時に学習したことを使って、「一つ分の大きさ」、「いくつつ分」を考えながら、言葉に表していた。それを隣同士で、伝え合い、自分の考えを確かめていた。全体での確認場面では、自分の考えを進んで伝えようとする活発な話合いとなり、多様な考えを確かめ合うことができた。

図に表す活動では、板書の言葉を見てまとまりを意識して図に表していた。式を書く活動では、これまでに表した言葉や図と関連付けながら、自力で式に表すことができていた。

考察

まず、自分の言葉で表す活動（**要素Ⅰ**）を行ったことで、児童は、前時の学習を想起しながら考えることができていた。次に、隣同士で伝え合うことにより、自分の考えを伝える自信をもつことができた。そして、数学的な用語の確認を位置付けたこと（**基本的事項の理解**）により、その後の図及び式に表す活動（**要素Ⅰ**）では、関連付けながら図や式に表すことにつながった。これらの要素を位置付け、学習活動を行ったことにより、算数で自力解決する力を高め、乗法の意味を理解することができた。

2 資料から必要な情報を読み取り、比較・関連・総合して考える学習活動

第4学年 社会科

1 単元名：「玉川兄弟と玉川上水」

2 単元の指導目標

- 玉川兄弟の働きに関心をもち、玉川上水の工事の様子や工事に使った道具などについて資料等を活用して調べ、玉川兄弟の働きや苦心について考える。
- 玉川上水は、玉川兄弟の様々な努力と工夫によって作られ、江戸の人々の飲み水としてだけではなく、荒れた武蔵野台地の開発にも役立ったことについて考える。

3 検証すべき課題


- ・ 既習学習や根拠を基に説明し合い、考えたことをまとめ伝え合うことにより互いの考えを深めているか。
- ・ 相手意識や目的を明確にもち、自分の考えをまとめ、発表しているか。

本時の学習（7／12）

(1) 本時のねらい

- ・ 玉川上水の水が分水によっていろいろな地域に分けられたことについて理解する。

(2) 本時の展開（予想を立てる学習場面 一部抜粋）

学 習 活 動		○指導上の留意点 「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」
調 べ る	<p>3 玉川上水がなぜ変化したのかを予想する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> なぜ分水が作られたのかについて予想したことをノートに書く。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人が生活するには、水が必要だから ・ 畑をもっと作ろうとしたから <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 隣の人と、自分の予想を伝え合った後、全体でなぜ分水が作られたのかについて話し合う。 </div> 	<p>○ 上水から分かれたものを分水ということを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 要素Ⅰ 自己の思考 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 具体的な指導の手だて 予想を書く文のモデルを示す。 ・「わたしは、~~~~~だから、~~~~~になったと思います。」 ・考える時間を適切に取る。 </div> <p>○ 自分の予想が立てられない児童には、前時までの学習を振り返りながら、水が引かれるとどんなことができるようになるのかを考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 要素Ⅱ 伝え合い </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 具体的な指導の手だて 他者の発表と自分の考えを比べたり、関連付けたりして話し合うようにさせる。 </div> <p>○ 根拠を明らかにして話すように促す。（国語科との関連）</p>

分析

なぜ分水が作られたのかを予想する活動では、分水が引かれたという事象を根拠にして、前時までの学習を基にしなが、人々の生活と関連付けて考えていた。話し合いでは、前の児童の発表を受けて、「つけたしで」や、「似ていて」などの言葉を用いて発表し合う姿が見られた。

考察

予想をする活動（**要素Ⅰ**）では、文のモデルを示したことで、自分の考えを構築しやすくなった。また、隣同士の意見交換（**要素Ⅱ**）は、自分の考えを言葉に表して伝えること、経験ができること、相手の考えを聞くことによって、自分の考えの妥当性を感じ、別の考えを知る機会になった。全体での話し合い（**要素Ⅱ**）では、前の人考えを受けた発言から、比べたり、関連付けたりしながら、資料を根拠として社会的事象の予想を深めることにつながった。

3 解き方の見通しをもたせ、数直線に表して考える学習活動

第5学年 算数科
1 単元名：小数でわる計算
2 単元の指導目標
 ○ 乗数が小数の場合の除法の意味とその計算の仕方について理解し、それを用いる能力を伸ばす。また、小数倍や基にする量を求めるときに、小数の除法が適用されることを理解する。
3 検証すべき課題
 ・ 筋道を立てて、見通しをもって自分の考えをまとめているか。
 ・ 根拠を基に自分の考えを説明しているか。

本時の学習（4 / 11）

- (1) 本時のねらい
 ・ 小数÷小数の計算の仕方について考え、立式したり、計算したりする。
 (2) 本時の展開（問題を読み取り、数直線に表して式に表す場面 一部抜粋）

	学 習 活 動	○指導上の留意点 「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」
つ か む	<p>1 本時の学習を知り、問題の内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> 1.2 m 鉄のパイプの重さを量ったら 8.4 k g でした。この鉄のパイプ 1 m の重さは何 k g でしょう。 </div> <p>2 解き方の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> どのようにしたら解くことができるかを考え、見通しをもつ。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px; width: fit-content; margin-left: 20px;"> 予想される児童の反応 数直線、図、式、筆算 </div>	<p>○ 板書で目標を明示する。</p> <p>○ 問題をノートに記入させる。 ○ 問題から分かることと、求めることを確認する。 ○ 前時の課題と比較し、与えられた数値がどちらも小数であることに気付かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">学習情報の獲得</p> <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;"> <p style="text-align: center;">具体的な指導の手だて</p> <p>前時までの学習を想起させる。ノートを確認させる。 解き方の見通しを発表させ、言葉によって確認させる。</p> </div> </div>
自 力 解 決	<p>3 数直線をかき、立式をする。 (1) 数直線に表す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> 分かったことを基に数直線に表す。 (数直線に表す算数的活動) </div> <p>(2) 数直線を手がかりに立式をする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">要素 I 自己の思考</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">具体的な指導の手だて</p> <p>始めに数直線のかき方についてノートも用いて確認する。また、数直線をかく時間を適切に確保する。</p> </div> <p>○ 自力で数直線に表すことにより、問題で問われていることを整理し式を立てられるようにする。</p>

分析
 解き方の見通しをもつ場面では、教師が問うと、児童から次々に方法についての声が挙がった。また、前時までのノートを見るように促すと、児童はノートを確認し、前時までの学習を確かめ、本時で取り組む問題に対して意欲的な表情が見られた。
 数直線をかき活動では、多くの児童がこれまでのノートを見ながら表していた。初め、数直線上に表す位置が違う児童も見られたが、隣の児童と確認し合うことで、正しい位置に気付き、数直線に表すことができた。


考察
 見通しをもつ活動、**(学習情報の獲得)**を取り入れたことにより、児童一人一人の自力解決へとつながった。ノートで既習事項を確認することは、見通しをもち、これまでの学習したことを使って自力解決すること**(要素 I)**に有効である。
 問題を解くためには、問われていることを整理することが重要である。数直線に表すことによって整理され、分かっていることと求めることや数量の関係をつかむことができ、立式することができた。

4 科学的な言葉や概念を使用して、自分の考えをまとめる学習活動

第5学年 理科
1 単元名
 「流れる水のはたらき」
2 単元の指導目標
 ○ 地面を流れる水や川の様子を観察し、流れる水の速さや量による働きの違いを調べ、流れる水の働きと土地の変化の関係について考えをもつことができるようにする。
3 検証する視点
 ・ 実験の結果や視聴覚資料を通して分かったことを比較・分類・関連付けているか。
 ・ 科学的な言葉や概念を使用して話し合ったり、書いたりしているか。

本時の学習（8 / 9）

- (1) 本時のねらい
 ・ これまでの学習を振り返って、流れる水の働きについてまとめることができる。
 (2) 本時の展開（グループでまとめる方法を話し合い、まとめた文章を書く活動 一部抜粋）

	学 習 活 動	○指導上の留意点 「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」
ま と め	<p>3 3人組になり、短冊を操作して文章としてまとめる方法を話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 視点に沿って、短冊を分類しまとめる。 </div> <p>4 話し合ったことを基にして流れる水の働きと土地の変化についてまとめた文章を書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ワークシートに文章を書く。 </div> 	<p>○ 一人一人が伝え、聞く機会を確保できるようにグループは3人とする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 要素Ⅱ 伝え合い </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 具体的な指導の手だて 話し合いの視点を示す。「比べる」「分ける」「つなげる」 </div> <p>○ 既習事項を想起できるように、写真や実験の様子の映像を教室内に準備しておく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 要素Ⅲ 思考のまとめ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 具体的な指導の手だて 自分の考えをまとめられるように時間を十分取る。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 具体的な指導の手だて 分類し、まとめたことを生かすように促す。 </div> <p>○ 接続詞や説明的な文章の書き方等、国語科で学習したことを活用するように促す。 （国語科との関連）</p>

分析
 グループの話し合いでは、各自が書いた短冊を話し合いの視点に沿って比較・分類・関連付けながら、流れる水の働きと土地の関係についてまとめていた。まとめの文章を書く活動では、自分が始めに考えた内容のほか、グループの話し合いや全体の確認で得た新たな内容を盛り込み、記述している児童が多く見られた。

考察
 3人のグループで話し合わせたこと（**要素Ⅱ**）により、自分では、気付かなかった考えや、見落としていた考えについて確認することができていた。また、少人数のグループ構成であったため、聞き手に徹してしまう児童はなく、全員で話し合うことができていた。
 まとめ文章を書く活動（**要素Ⅲ**）では、グループで話し合ったことを取り入れながら、自分でまとめ文章を書くことができていた。本時の導入部分では、本単元で押さえない教科特有の用語等についても確認しており、それらを用いて表すことができていた。

検証授業を行った結果、「要素」を位置付けて指導を行ったことで、自分で考え、判断し、その考えを文章で表したり、伝えたりする児童の姿が見られ、教科の目標や内容に応じて言語活動を行うことができた。また、教師の指導内容が明確となり、単元の目標の達成にもつながった。

5 児童の言語活動を充実させるための校内研究の効果的な進め方

ここまでは、本研究の基礎研究、調査研究、開発研究を踏まえて児童の言語活動を充実させるための指導の在り方について論じてきた。ここでは、それを各学校において言語活動の充実に関する校内研究を効果的に進めるための、研究授業の参観の仕方や、校内研修会の進め方を提案する。

(1) 調査研究

本研究では、言語活動の研究に取り組んでいる都内公立小学校を対象に、研究授業や校内研修会等についての調査を実施した。回答数は94校であった。その結果、次のようなことが分かった。研究授業については、「年間の実施回数が1回～6回」の学校は53校(56%)、7回～12回が29校(31%)、20回以上実施している学校は4校であった。

研究体制については、79校(84%)が分科会をつくって取り組んでいる。その中で、学年の枠を取り払って教科ごとの分科会をつくっている学校が5校あった。

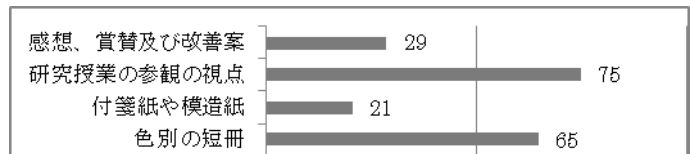


図9 校内研修会の工夫

校内研修会を進める方法については、75校(80%)があらかじめ設定した授業の参観の視点にそって意見を出し合っている。また、65校(69%)で色別の短冊を用いたり、21校(22%)で付箋や模造紙を用いたりして、意見を出し合う工夫をしていることが分かった。(図9)しかし、研究推進上の課題も少なくなく、「各教科等の言語活動をどのように捉えたらよいか」と回答した学校が32校(34%)と最も多く、「研究主題に迫る具体的方策が見出せない」が23校(24%)、「発表や話し合い活動を中心とした授業となってしまう」が19校(20%)であった(P31. 図1参照)。

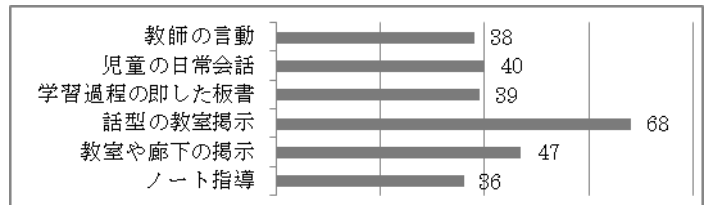


図10 言語環境の工夫

さらに、「校内研修会の工夫」と「研究推進上の課題」についてクロス集計をして分析を行った。すると、「授業の参観の視点をあらかじめ設定している」学校のうち、26校(35%)が各教科等の言語活動のどのように捉えたらよいか共通理解が難しい」と回答し、19校(25%)が研究主題の解決に迫る具体的方策を見付けられないと答えている。こうしたことから、言語活動の捉えなどについて校内で共通理解するとともに、課題解決の具体的方策につながる授業参観の視点を設定する必要があると考えた。

また、言語環境の整備の状況については、68校(72%)の学校が児童に話型の提示をしている。教室や廊下の掲示を活用している学校は47校(50%)、言語活動の充実のためのノート指導に取り組んでいる学校は36校(38%)であった。(図10)

これらの調査結果を基に、授業の参観の仕方や校内研修会の進め方など、言語活動の充実につながる効果的な校内研究の在り方について提案することとする。

(2) 言語活動を充実させる校内研修会の取組例

言語活動を充実させることをねらいとした研究授業に取り組むために、「研究授業の参観の視点」「授業記録のとり方」「校内研修会の進め方」について、本研究のこれまでの提案を活用して示す。

ア 研究授業の観察の視点

実施する研究授業が、言語活動の何をねらいとしているのかを明確にして研究授業に臨むことが大切である。そのねらいを共通の視点として授業を参観し、校内研修会で意見を出し合うことで、言語活動の充実のための指導の在り方を探ることができる。例えば、単元計画に位置付けた「言語活動としての要素」や「言語活動を支える基盤」に照らして、その研究授業の参観の視点を設定する。さらに、授業参観する際の具体的な視点を設定することによって、授業参観者が指導者（授業者）や学習者（児童）のどのような行動に着目したらよいか共通理解して参観するようにする。次の表で、「言語活動を支える基盤」及び「言語活動としての要素」を基盤とした「授業参観の視点の例」を示す。

表4 授業参観の視点の例

基本的事項の理解	
指導者	単元全体を通して確実に学ばせたい用語（記号）や表現を使用して指導しているか。
	学習過程に即した板書を行い、学習の記録をノート等に記載させているか。
学習者	単元全体を通して身に付ける用語等を理解し、使用しているか。
	ノートやワークシート等を活用して、自ら学習を振り返る（確認する）ことができているか。
学習情報の獲得	
指導者	授業のねらいに合わせた教材・教具を工夫しているか。
	学習者が情報を得られるような学習活動（体験による実感など）を工夫しているか。
学習者	学習材等を活用し、指導者が示した視点等を踏まえた情報を得ているか。
	体験により実感したことなどを、ノートやワークシートに記録（記載）しているか。
要素Ⅰ：自己の思考	
指導者	多様な考えを引き出す発問をしているか。
	学習者が思考する時間を適切に確保しているか。
	学習者が思考するための適切な支援をしているか。
学習者	学習に必要な用語や資料を活用し自分の考えをもつことができているか。
要素Ⅱ：伝え合い	
指導者	グループ学習等を取り入れて、児童同士が学び合う場を設定しているか。
	机間指導などにより児童の伝え合いの状況を把握し、適切な支援をしているか。
学習者	一人一人が自分の考えを自分の言葉で伝え、他者の考えも受け止めているか。
	課題解決に即した伝え合いになっているか。
要素Ⅲ：思考のまとめ	
指導者	伝え合いにより得た情報から、自己の考えを深めたり、再構築したりすることができるような学習活動を工夫しているか。
学習者	伝え合いにより得た情報から、自己の考えを深めたり、再構築したりすることができるか。

※対象となる学習者をしぼって学習過程を追っていくと有効である。

イ 言語活動の充実を図るための授業記録のとり方

言語活動の充実を図る授業研究の成果を上げるためには、授業参観の際に、単に発言回数などを記録するなど学習者の学習状況が無目的に観察・記録するのではなく、言語活動として適切な授業記録をとることが大切である。ここでは、先に例示した授業参観の視点に照らして、座席表を活用して、児童の学習状況を記録する例を示す。

	7班	5班	3班	1班				
	②	①	②	□	①	②	①② ②	
	①	②	②	②	①		□ ②	
	□	①			①	②		①
	②	①②			①	①	①	①
	8班	6班	4班	2班				

(図 11)

図 11 座席表を活用した授業記録例

この事例は、主に要素Ⅰ「自己の思考」で思考・判断したことを、要素Ⅱで「伝え合い」をする学習活動の記録を表したものである。各教科等の授業のねらいを実現するためには、指導者は、児童の「自己の思考」の状況や「伝え合い」の状況を把握し、適切に支援する必要がある。

上の座席表中の記号について	
①	→ 「1の解き方」で解決できた
②	→ 「2の解き方」で解決できた
□	→ 自力では解決できなかったが伝え合いで課題が解決できた

右の例は、研究授業においては、授業の参観者が、その学習活動における、児童一人一人の学習達成状況を記号化して座席表等に記入し、学級全体の学習状況を把握するようにした例である。

この事例における各班の学習達成状況を見ると、1班・3班・4班・7班・8班は、いずれかの児童が「1の解き方」か「2の解き方」で解決できている。2班は「2の解き方」で解決できた児童がいないことを示している。参観者は、授業者が机間指導でその状況を把握し、「自己の思考」の場面や「伝え合い」の場面で、「2の解き方」に関する支援をしているかどうかを参観するようにする。また、1班・5班・7班の□の児童は、自力では解決できなかったが、伝え合うことによって解き方を理解し、課題が達成できていた。その際にも、参観者は、授業者が「伝え合い」の場面で□の児童の状況を把握できていたか、参観するようにする。また6班は、全ての班員が、いずれの解法によっても課題解決できていない状況があり、「伝え合い」の場面では、いずれの児童も与えられた学習課題を解決できないことが分かる。この学習達成状況を指導者が把握して、学習支援を適切に行うことができたか、参観者が把握するようにする。こうした授業記録を校内研修会で活用することで、授業者だけでなく、参観者にとっても、すぐに役立つ情報となるようになり、授業改善につながる。

ウ 言語活動の充実を図るための校内研修会の進め方

前述の調査を分析すると、全体協議を行っている学校は 87 校 (93%) あるが、学年ごとまたは教科ごとの分科会で協議を行っている学校は 42 校 (45%) で半数以下となっている。校内研修会の工夫については、色別の短冊を用いて意見を出し合う手法や付箋紙や模造紙を使って意見をまとめる手法などを取り入れている学校が多い。

教科別や学年別などの分科会による話し合いを導入したり、話し合いの視点を明確にしたりするなど、校内研修会を工夫することは、参加者が積極的に意見を出し合って研究活動を充実

させ、教師自身の思考力・判断力・表現力を向上させることにつながる。そこで身に付いた教師の力が、児童の学習活動における適切な指導・助言となり、児童の言語活動を充実させることに直結すると考える。ここでは、校内研修会の工夫について例示する。

＜校内研修会の流れの工夫例＞

研究授業では、視点を明確にして授業を参観します。



参観者は、授業参観の視点について、授業者の「良かった点」と「改善した方がよい点」を、2色の付箋紙(や短冊)にメモします。



校内研修会では、教科別や学年別の分科会ごとに分かれて、それぞれの分科会で付箋紙(や短冊)を色別に集め、意見を出し合います。

(模造紙などを活用すると可視化でき、意見が出しやすくなります。)



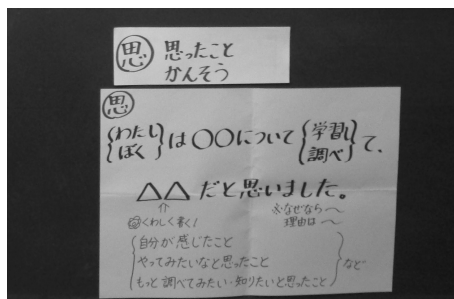
全体会で発表し合い、授業改善のポイントを明確にし、共有します。

(3) 言語活動を充実させる学習環境

前述の調査研究から、言語活動に関する研究に取り組んでいる学校では、話型の提示や教室廊下の掲示の活用、ノート指導を行っている学校が多くあることが分かった。また、板書に留意した指導や、児童の日常的な会話について指導を共通理解していたり、児童のモデルとなることを意識して教師の言葉遣いを整えていたりする学校も多かった。(図 13)

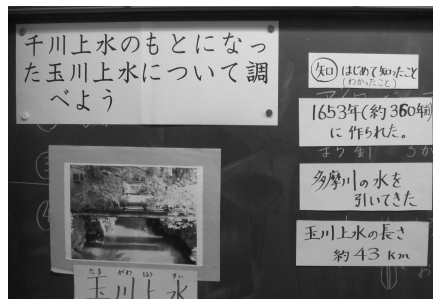
【学習環境の工夫例】

話型の指導



- ・話型を示すことにより、学習の課題に対して自分の考えをもつ。(「要素Ⅰ 自己の思考」)
- ・話型を用いて、自分の言いたいこと、考えたことをより明確に伝え合う。(「要素Ⅱ 伝え合い」)

板書の工夫



- ・板書に授業のねらいや学習の課題、資料を明確に示すことにより、学習を進める上で必要な事柄を得る。(「基本的事項の理解」「学習情報の獲得」)
- ・学習のまとめの段階で、キーワードを活用し、学習したことを自分の言葉で表す。(「要素Ⅲ 思考のまとめ」)

図 13 学習環境の工夫例

児童の言語活動の充実には、こうした学習環境を整えることも必要である。ここでは、児童が既習の学習内容(前年度や前時までの学習内容)を想起して本時の学習につなげることができるような「学習履歴」としてのノート指導について、その指導の効果や指導の工夫について例示する。(P53. 図 14)

〔言語活動を支える基盤〕

- ・ 1 単位時間ごとの内容が記述され、次時の学習に活用できる。
 - ・ 実験や体験を可視化し、次時の学習に活用することができる。
- 要素Ⅰ 自分の考えを可視化しながら言語化することができる。
- 要素Ⅱ 友達の意見を書きとめ、自分の考えと比較して、新たな考えに気付くことができる。
- 要素Ⅲ これまでの思考を振り返り、思考の変容を見ることができる。

学習者がノートを書く際の工夫

- 計算（筆算）や答えの間違えは消さない。間違えは二重線を引くなどして書き直す。
- 配布したプリントをノートに貼るなどして整理する。
- 色の筆記具や吹き出しを活用するなどして、自分の考えと他者の考えを区別する。
- 板書事項だけでなく、教師が話したことを書き留める。
- 授業の終末に、学習の感想や自己評価を記入する。

教師の板書の工夫

- 板書計画を立て、学習者が書き取りやすい板書を心がける。
- 板書に色チョークなども活用して、学習内容の区別や軽重を分かりやすくする。
- 定義や約束ごとなど、習得させたい基本的事項を欠かさず板書する。
- 板書を書き取る時間を確保し、教師の説明時などの時はノートに書かせない。

その他の工夫

- ノートの提出時や机間指導時に、サインやコメント等の学習意欲につながる評価を行う。
- ノート指導について校内で共通理解し、教科等による効果的な使い方を工夫する。
- ノートの書き方の例を教室や廊下に掲示したり、資料として配布したりして共通実践する。

図 14 要素に照らしたノート指導の効果とノート指導の工夫例

第 4 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

研究の成果として、以下の 3 点が挙げられる。

- (1) 「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」の開発とその活用方法を示すことにより、教師が単元指導計画等の作成において、言語活動を適切に位置付けた授業計画を作成することができるようにした。
- (2) 言語活動を、各教科等の授業のねらいを実現するための手段として、意図的・計画的に位置付けることができるように、「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」を踏まえた「言語活動関連一覧」を開発した。
- (3) 児童の言語活動を充実させるための校内研究を効果的に進めるために、それぞれの「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」に沿った「授業参観の視点の例」作成した。このことにより、教師が、研究授業と校内研修会の関連を図り、授業改善に資することができるようにした。

2 今後の課題

本年度は小学校に焦点化した研究を行った。今後は、他の校種における言語活動の充実を図るための指導の在り方や言語に関する能力の育成を図ることを目指し、学校における組織的な取組について、検討する必要がある。

○ 参考資料・文献

- ・ OECD 生徒の学習到達度調査～2009 年調査国際結果の要約～
平成 22 年 12 月 文部科学省
- ・ 各教科等における「言語活動の充実」とは何か カリキュラム・マネジメントに位置付けたリテラシーの育成
平成 21 年 3 月 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 編
- ・ コミュニケーション（能力）について
平成 22 年 9 月 8 日 東京都教員研究生全体研修会 配布資料 村松賢一
- ・ 小学校学習指導要領 平成 20 年 3 月 文部科学省
- ・ 小学校学習指導要領解説総則編 平成 20 年 8 月 文部科学省
- ・ 言語活動サポートブック 平成 22 年 4 月 横浜市教育委員会
- ・ 言語活動の充実を図る「視点と方法」のある授業 ～「とらえかたツール」で授業を変える～ 平成 20 年 6 月 山口大学教育学部附属光小学校 著
- ・ 言語活動の充実を図る全体計画と授業の工夫
平成 22 年 2 月 独立行政法人教員研修センター
- ・ 言語力の育成方策について（報告書案）【修正案・反映版】
平成 19 年 8 月 16 日 言語力育成協力者会議（第 8 回）配付資料
- ・ 確かな学力の育成を目指す教科指導法に関する研究―「言語活動の充実」を通して―
平成 21 年度研究紀要 千葉市教育センター
- ・ 東京都教育ビジョン（第 2 次）平成 20 年 5 月 東京都教育委員会
- ・ 平成 23 年度版社会科指導計画 東京都小学校社会科研究会
- ・ わたしたちの東京都
平成 22 年 4 月 東京都小学校社会科研究会、明治図書出版株式会社
- ・ 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申） 平成 20 年 1 月 17 日 中央教育審議会